

全日本チャンピオン。ピオンの夢 チャレンジする毎日が楽しい



起伏に富んだ土のコース上をオートバイで走りレースを行う競技、「モトクロス」。急斜面やジャンプ台などのあるコースでの激しい戦いがくり広げられるこの競技で、大槌町から全日本選手権の表彰台を目指す女性レーサーがいます。

阿部華帆あべかほさんは、父親の正明さんが参加していたレースを見るうちにモトクロスに興味を持ち、5歳からバイクに乗り始めました。初めての大会は、緊張してあまり記憶にないのですが、悔しい気持ちは覚えていて、この頃にはすでに将来バイクのレーサーになりたいと思うようになっていました。

現在23歳の華帆さんは、大槌高校から盛岡の大学へ進学し、今年4月大槌町に戻り就職。その間ずっと、夢に向かいモトクロスを続けてきました。彼女の夢は、1年で7戦行われる全日本モトクロス選手権レディースクラスの総合チャンピオン。

今シーズンの全日本選手権でのゼ

「もう少し上位に入りたかった」と悔しい顔を見せましたが、白熱した戦いで観客を沸かせました。

2歳下の弟、仁じんさんもモトクロスに取り組み、プロを目指す実力の持ち主。二人はともに、日々のトレーニング、週末には内陸のコースへ出かけ練習、選手権出場の際は日本全国の会場への移動と大変な日程をこなします。

二人をチームとして支えるのは、父・正明さんと母・さと子さん。車の整備士の資格を持つ正明さんはオートバイの整備についても独自に学び、マシンの整備を担当。高校生か



モトクロスを始めた頃の華帆さんと仁さん。この頃からレースに魅力を感じるように

ッケンツケンは17番。この番号は、昨年の選手権のランキングによって指定されます（東北選手権では10番）。2016年には男子選手に混じって東北選手権シリーズで総合優勝を飾ったこともある華帆さんは、第一の目標として全日本の表彰台を目指します。「できなかった事にチャレンジするのが楽しい。中途半端で夢をあきらめたくない」と決意を語ります。

7月18日（月）、一関市の藤沢スポーツランドで行われた東北モトクロス選手権シリーズでは、男子選手も参加するオープン85クラスに出場。最高気温39度の猛暑の中、6位でゴール。久しぶりのレース出場となり

ら20代まで、自身もプロを志した経験があった正明さんは、「自分が果たせなかった夢と一緒に追いかけてい」と、サポートする喜びを語ります。

さとさんはマシンを洗浄したり、レースや練習に向けた準備をしたりと、二人が集中して臨める環境づくりに心を配ります。「娘には、女の子だけでなく、性別関係なく強い子になってほしい。モトクロスをやること強く育ってくれた」と応援しています。華帆さんは「自分の事のように一緒に喜んでくれる」と家族の支えに感謝し、夢に邁進します。



【左から】阿部正明さん（父）、仁さん（弟）、華帆さん、さと子さん（母）

正明さん「自分と同じ夢を追いかけている。本人たちが納得するまでやらせてあげたい」

さと子さん「やりたいと言った時は反対しなかったが、二人合わせて救急車は10回以上。ドクターヘリで運ばれた時にはやめてほしいと思ったことも。それでも続けたいと言う言葉を聞いて、覚悟を決めて応援しています」

「モトクロスをやっている家族は仲が非常に良い」と話すさと子さん。練習や移動など長い時間をともに過ごす上、命に関わることもある競技でチームを組む信頼関係はとて強い。